

昭和初期における子供用上被^{うわっぱり}

—雑誌『主婦之友』より—

村田裕子

1. はじめに

日本の子供服の移り変わりを大正6年(1917)に創刊した実用的な家庭生活情報を中心として編集された雑誌『主婦之友』を対象として調査していくと、着物や洋服、前掛けや洋装のエプロン、そして上被(うわっぱり)という衣服が登場してくる。この上被は表着が汚れるのを防ぐことや、運動に便利なることを目的として、表着の上に被って着装する衣服である。表着が汚れることを防ぐ目的で着装される衣服には、上被の他にエプロンや前掛けがあるが、これらに関する先行研究については、エプロンは松田歌子¹⁾が、子供用の西洋前掛けに関しては岩崎雅美²⁾が論じており、洋服の一つとして受容されていることを述べている。和服から洋服へと洋装化が進んでいく時代の中で、エプロンとはまた違った用途を含んで考案された子供用の上被について昭和10年までを調査対象として考察していく。

2. 子供用上被の掲載

『主婦之友』において、掲載された上被を昭和10年までの期間にわたり調べていくと(表1)、はじめて子供用の上被が掲載されるのは昭和5年(1930)1月号(14巻1号)である³⁾。考案者は文化裁縫女学校の松本信子であり、「温かくて身軽に着られる恰好のよい子供用上被の仕立方—誰にでも簡単に仕立てられる和洋兼用の上被—」というタイトルで写真と共に掲載されている(図1・2)。その形の特徴は、袖は長袖で、身頃はそれまでの子供用エプロンとは違い身体の前面だけでなく背中や腰回りも布で覆われ汚れにくい形となっている。そして前身頃、後身頃ともヨークの切り替えを行うことにより、上被の下部に動作がしやすいゆとりを持たせた形になっている。丈は膝と足首の中間位の長さで柄は格子柄である。これは、「和洋服



図1 はじめて『主婦之友』に掲載された子供用上被
「温かくて身軽に着られる恰好のよい子供用上被」
松本信子考案 昭和5年1月号

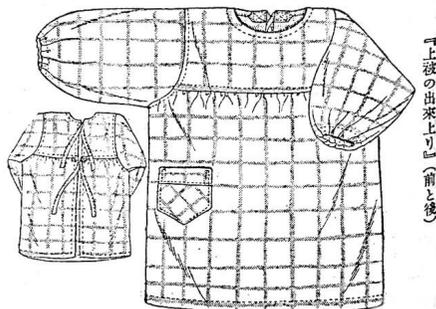


図2 はじめて掲載された子供用上被(図1)の出来上り図 昭和5年1月号

兼用の上被となっている」と記載されているが、デザインをみると着物の上に重ねて着るのが似合う和服向きのデザインである。

上被についてであるが、最初に『主婦之友』に登場するのは子供用ではなく婦人用である。子供用よりも2年早く昭和2年12月号(11巻12号)に掲載されている⁴⁾。考案者は谷口澄子で「優美で動きよい新案婦人仕事服の仕立方—仕事服としても事務服としてもお奨めしたい上被—」

として写真と共に発表されている(図3)。そこには「着物を汚さぬための上被でも、身につけている上は体裁も相当によくありたいものがあります。」と記載されており、上被は着物を汚さぬものという考え方の基に考案され、着物に合わせたデザイン性も考慮していることが窺える。仕事用に考案された婦人用の上被の長所が、活動的な子供の表着の汚れ防止と動きやすさという用途に適し、子供への使用が勧められたのであろう。



図3 最初に『主婦之友』に掲載された婦人用上被「仕事服としても事務服としてもお奨めしたい上被」
谷口澄子考案 昭和2年12月号

3. 上被の構成と用途

はじめて『主婦之友』に掲載された子供用上被の構成は、前述したように袖は長袖であり、身頃は前後ともヨーク切り替えのある形である。そして身頃部分は前後共に丈が長く布で覆われ、背中や腰回りといった身体の後の部分の汚れも

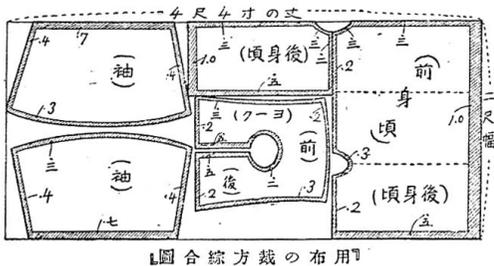


図4 はじめて掲載された子供用上被(図1)の「用布の裁方総合図」 昭和5年1月号

防ぐ形となっている(図1・2)。

この上被の「用布の裁方総合図」(図4)をみると、袖付け部分は緩やかなカーブとなっているが、身頃のヨーク部分は前と後の肩が繋がっており、肩傾斜はついていない。ヨーク下の前身頃と後身頃の脇には、傾斜がなく前後の脇が繋がった構成となっている。これは、洋服裁ちの曲線を取り入れながらも直線裁ちの和服の要素を引き継いだ和洋折衷の裁ち方である。材料には鯨尺で二尺幅の縞ネルを使用し、袖口が汚れないように絞る方法としてゴムテープを使って仕立てている。

次にエプロンとはじめて掲載された上被の構成を比較してみると、エプロンには長袖となっているものもあるが背中や腰回りまでを覆った形とはなっていない。大正15年2月号に掲載された平岩銈子考案の「坊ちゃん嬢ちゃん方の可愛いエプロン二種の仕立方」⁵⁾のうち、一号型は長袖のエプロンによく見られる形である。昭和4年2月号に掲載された婦人記者考案の「男女児用食卓エプロンの作り方」⁶⁾の乙型もこれに類似している。身頃と袖を繋げて裁断する構成である。前身頃はありますが後ろは首の下で紐を結んで身体に取り付ける形となっている。背中や腰回りが布で覆われた形とはなっていないのである(図5・6)。その点、上被は長袖で後身頃があり、背中や腰回りまでをも布で覆った形となっている。袖口部分はエプロンも上被

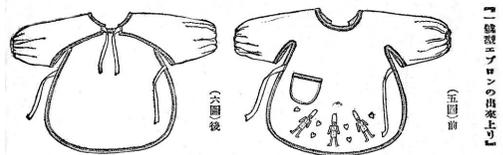


図5 「坊ちゃん嬢ちゃん方の可愛いエプロン一号型出来上り図」 平岩銈子考案 大正15年2月号

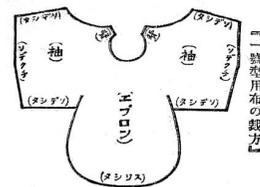


図6 「坊ちゃん嬢ちゃん方の可愛いエプロン一号型用布の裁方図」 大正15年2月号

も共に、内に着ることになる和服や洋服の袖が活動の邪魔にならないように、また汚れが入り込まないように絞った形となっている。

4. より活動的なデザインの上被へ

考案された子供用上被のデザインは、はじめ和服調であったが、昭和7年4月号の掲載では「小学生の通学用新型上被四種」として新しいスタイルが写真と共に発表されている(図7)(図8)^{7) 8)}。丈は膝上くらいと短くなり、衿も付いてスプリングコートのような可愛らしいデザインとなっている。その中の7,8歳女兒用(図7)の出来上り図(図9)や用布の裁方総合図(図10)をみると、デザインの特徴としては、衿が付き、前に釦がついた形での打合せとなり、脇には裾に向かって広がっていくように傾斜がついて、動きやすい構成となっていることがわかる。模様は水玉模様であり、袖口はカフス仕立てにして表着を汚れにくくしてい

る^{9) 10)}。

その後も丈が短く裾が広がった活動的なデザインが掲載され、洋服調のデザインへと変化している。用途としては通学用や家庭着用に着用することや、砂遊びや粘土いじり、手工や書方の際に表着を汚すことのないように作業用として使用することが推奨されている。また重ねて



図8 小学生の通学用新型上被四種のうち一種
7,8歳の男児用 杉野芳子考案
昭和7年4月号口絵



図7 小学生の通学用新型上被四種のうち一種
7,8歳の女兒用 豊生才治郎考案
昭和7年4月号 口絵



図9 7,8歳の女兒用上被(図7)の「出来上り図」
昭和7年5月号

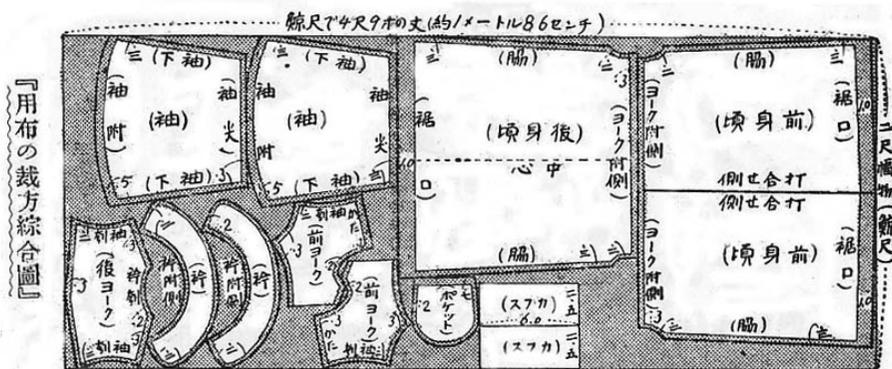


図10 7,8歳の女兒用上被(図7)の「用布の裁方総合図」 昭和7年5月号

上に着るという用途から、冬には防寒用のオーバーや室内着としても好まれている。さらに上被は洗濯の激しいものであるから、なるべく丈夫な布地を選んで作るように素材は繰り返し洗濯の効くギンガムやネルで仕立てることが勧められている。

昭和9年4月号には「小学生の理想的な通学服に就いて」の座談会での内容が掲載されている¹¹⁾。出席者は東京女子高等師範学校教授文部省督学官 成田順子、文化裁縫女学校 中村里美、東京家庭副業奨励会渋谷授産場 福岡やす子、大森組合教会 小北皎次郎氏夫人小北のぶ子、大森金曜会 江浪由季子である。この座談会の中では「男女児とも可愛い上被を」についても話し合いがされており、上被は通学用よりも作業用に是非欲しいもので、実用的でありながら可愛いスタイルのものを考案することが期待されている。また、座談会の記事の中には男女児の上被が掲載されている(図11)。この2種の上被は、すでに前月の3月号に掲載されており渡邊洋裁女学院の渡邊花子が男子の着ている上被を、小幡洋裁縫学校の小幡繁子が女子の着ている上被を考案している^{12) 13)}。さらに読者に対して通信販売を行っていた代理部においても「お子さま用新型上被」として販売している¹⁴⁾(図12)。



図11 男女児とも可愛い上被を
「小学生の理想的な通学服に就いての座談会」
に掲載された上被 昭和9年4月号

その後、昭和9年11月号になると付録の別冊に掲載された上被の中で、渡邊花子考案の「5, 6歳男女両用の防寒上被(スマック)」(図13)や小幡繁子考案の「7, 8歳男女両用の防寒上被(スマック)」(図14)には、上被にスマック

図12 「お子さま用新型上被」
昭和9年4月 主婦之友代理部

という記載がされている^{15) 16)}。これは冬用の為に防寒も兼ねているが、上被が身体の前部だけでなく背中や腰回りまでも覆い、長袖で袖口はゴムやカフスを付けることによって表着の汚れを防ぎ、裾をゆったりとさせ動作がしやすいような構成となっていることや、素材は繰り返し洗濯の効く堅牢な布を使用することが勧められていることから考えると、現在の幼稚園や保育園などにおいて園児が表着である洋服を汚さないようにさらに重ねて上に着ているスモックの前身となる衣服の一つではないかと考える。

スモックは19世紀の英国において男性用農作業働着であったが、19世紀後半から20世紀初頭

にかけて女兒服へと変化していく。この女兒服には胸元の布に細かい襷を取りながら特殊な刺繍をしていくスマッキング刺繍が施されていた¹⁷⁾。それが大正時代の初期に日本に紹介されたが、次第にスマッキング刺繍をしていなくても男女児の遊び着や作業着として洋服を汚さないように、上に被るゆったりとした衣服の呼び名としても使われていくようになる。現在でも



図13 「5, 6歳男女両用の防寒上被」
渡邊花子考案 昭和9年11月号別冊
(※4, 5歳女兒用の防寒上被(スマック)
として仕立方掲載)



図14 「7, 8歳男女両用の防寒上被」
小幡繁子考案 昭和9年11月号別冊
(※防寒用の7, 8歳男女児の上被(スマック)
として仕立方掲載)

子どもの遊び着としてや、図画や工作、書道などをする際に洋服が汚れるのを防ぐために、また食事の時にエプロン代わりとしてもスマックは使用されている。

5. おわりに

上被は表着が汚れるのを防ぐことと、運動に便利なことを目的として、表着の上に被って着装するものであり、エプロンと違い背中や腰回りも布で覆われた形となっている。『主婦之友』に掲載された上被について調べていくと最初は通学用や家庭着用に着用することや、砂遊びや粘土いじり、手工や書方の際に表着を汚すことのないように作業用として使用することが勧められていたが、次第に通学用よりも作業用に使用することが勧められていく。また、デザインは実用的でありながらかわいいスタイルのものを考案することが期待されている。上被が雑誌に掲載された時期は春先や冬のことが多く、防寒用のオーバーや室内着としての機能も兼ねたようである。

袖は長袖で、最初は着物の上から被る和服調のデザインとなっているが、次第に丈が短く、裾が広がった活動的な洋服調のデザインへと変化していく。袖口はゴムで絞ったり、カフスをつけることによって、表着が汚れないように、動作がしやすいようにと工夫をした構成となっている。素材は汚れて何度も洗う必要性から、繰り返し洗濯の効くギンガムやネルといった丈夫な布を使用することが勧められている。

また、上被はスマックという名称がつけられることから、現在の幼稚園や保育園などにおいて、園児が表着の洋服を汚さないように、上から被って使用しているスマックという衣服の前進の一つであると考えられる。

註

1) 松田歌子・高島愛・高木直「明治、大正、昭和前期の学童の衣生活とその背景(山形)」『日本服飾学会誌 十号』日本服飾学会 1991年 pp.109-139

「第4章 学童の洋装化」の中で、エプロンについて、山形市中心部の小学校では、大正12年の関東大震災のあった頃から白いエプロンが女子の低学年から流行していく。モダンで新鮮なデザイ

- ンが受け入れられたことを論じている。
- 2) 岩崎雅美・田中陽子「子供の西洋前掛」『日本服飾学会誌 十三号』日本服飾学会 1994年 pp.31-41
 西洋前掛の生地が全て白キャラコであること。デザインの特徴は袖無・衿無のワンピース型や前垂に胸当てと肩紐をつけた型にひだ飾り、ポケットがついたものである。洋服の一つとして受容された子供の盛装にも着用されたことを論じている。
 - 3) 松本信子「温かくて身軽に着られる恰好のよい子供用上被の仕立方—誰にでも簡単に仕立てられる和洋兼用の上被」『主婦之友 昭和五年一月号』主婦之友社 1930年 pp.323-325
 - 4) 谷口澄子「優美で働きよい 新案婦人仕事服の仕立方—仕事服としても事務服としてもお奨めしたい上被—」『主婦之友 昭和二年十二月号』主婦之友社 1927年 pp.257-260
 - 5) 平岩銚子「坊ちゃん嬢ちゃん方の可愛いエプロン二種の仕立方」『主婦之友 大正十五年二月号』主婦之友社 1926年 pp.234-236
 - 6) 婦人記者「男女児用食卓エプロンの作り方」『主婦之友 昭和四年二月号』主婦之友社 1929年 pp.310-311
 - 7) 豊生才治郎「小学生の通学用新型上被四種 (2) 七、八歳の女児用」『主婦之友 昭和七年四月号』主婦之友社 1932年 p.80
 - 8) 杉野芳子「小学生の通学用新型上被四種 (3) 七、八歳の男児用」『主婦之友 昭和七年四月号』主婦之友社 1932年 p.80
 - 9) 豊生才治郎「エプロン代わりに着られる流行の男女児用上被の仕立方二種 (二) 七、八歳女児用上被」『主婦之友 昭和七年五月号』主婦之友社 1932年 pp.439-442
 - 10) 杉野芳子「エプロン代わりに着られる流行の男女児用上被の仕立方二種 (一) 一、二年生用男児用上被の仕立方」『主婦之友 昭和七年五月号』主婦之友社 1932年 pp.432-436
 - 11) 「小学生の理想的な通学服に就いての座談会」『主婦之友 昭和九年四月号』主婦之友社 1934年 pp.388-400
 - 12) 渡邊花子「(1) 一、二年生男児用上被」「新型の男女児用上被の仕立方二種 (二) 八、九歳男児用上被の仕立方」『主婦之友 昭和九年三月号』主婦之友社 1934年 p.14, pp.441-445
 - 13) 小幡繁子「(3) 小学生用の上被」『主婦之友 昭和九年三月号』主婦之友社 1934年 p.18
 - 14) 主婦之友代理部「お子様用新型上被」『主婦之友 昭和九年四月号』主婦之友社 1934年
 - 15) 渡邊花子「(2) 五、六歳男女両用の防寒上被」「(23) 四、五歳女児用の防寒上被 (スマック)」『主婦之友 昭和九年十一月号』主婦之友社 1934年 p.4, pp.105-107
 - 16) 小幡繁子「(3) 七、八歳男女両用の防寒上被」「(24) 防寒用の七、八歳男女児用の上被 (スマック)」『主婦之友 昭和九年十一月号』主婦之友社 1934年 p.4, pp.108
 - 17) 山本麻子「19世紀におけるスモックの変化—グリーナウェイ・スタイルが与えた影響—」『日本デザイン学会第47回発表大会要旨集』2000年 pp.32-33

昭和初期における子供用上被：村田

表1 『主婦之友』に掲載された昭和初期の子供用上被

(創刊した大正6年から昭和10年迄を調査)

掲載年月号 (巻号)	タイトル	デザイン・用途・素材などの説明文	考案者	掲載頁 掲載内容
昭和5年1月号 (14巻1号) 本誌	温くて身軽に着られる 恰好のよい子供用上被の仕立方「誰にでも簡単に仕立てられる和洋兼用の上被」	御覧のやうに、これはお嬢さんが召していますが、このままで男女児ともに着られます。そして写真のは六、七歳向の寸法ですが、各部を少々づつ加減しますと、四、五歳でも恰好よく着られます。	松本信子	323-325 仕立方
昭和7年4月号 (16巻4号) 本誌	小学生の通学用新型上被四種 (1)七、八歳の男女兼用、(2)七、八歳の女児用、(3)七、八歳の男児用、(4)十歳前後の女児用	洗濯本位のものから、細い襷を避けて、ギャダにし、大抵はヨーク附で、身幅をたっぷりにし、袖先はゴムテープで絞るか、またはギャダ寄せのカフス附です。悪戯ざかりの小学生に、男女ともに召して頂きます。衛生の上からは勿論、経済の点からも、ぜひお奨めいたします。都合により、仕立方は五月号に発表の予定ですから、それをお待ちくださいませ。(1)七八歳の男女兼用で、写真と反対の向に、胸を打ち合せれば男児用。綿毛交織の洗濯本位の布で、ダブル釦にしたヨーク附折返し衿。 (2)七八歳の女児用で、プリントボブリンを用いて、山形ヨークにして丸衿をつけ、三個の貝釦で前を打ち合せた可愛らしい型。 (3)七八歳の男児用で、茶と鼠の縞縞ギンガムで仕立てた、折り返し衿のヨーク附で、袖先は、ゴムテープで絞り、前は三個の釦で掛け合せた型。 (4)十歳前後の、女児用で、布地はエンジと白茶の小弁慶ギンガム。やはりヨーク附で、胸と背にたっぷりギャダを寄せ、五個の釦で打ち合せたもの。	(1,2)豊生才治郎 (3)杉野芳子 (4)並木伊三郎	80 口絵写真
昭和7年5月号 (16巻5号) 本誌	エプロン代りに着られる流行の男女児用上被の仕立方二種 (一)一、二年生用男児上被の仕立方「上被を着れば洋服が二倍の経済に着られます」 (※口絵写真は4月号に掲載)	ここで御紹介いたします男女児用の上被二種は、いつも四月号の口絵でお目にかけたもので、非常に好評でありましたから、その仕立方を御紹介することになりました。このほかから、本号の口絵でも、新型の上被を三種ほど御紹介しましたから、どうぞ御覧くださいませ。(一)一二年生用男児上被の仕立方：写真は、身頃の前後へ箱襷を寄せ、ヨークをつけた可愛い型で、運動が容易にできるやうに工夫したものです。寸法は、鯨尺で、身丈一尺五寸、裾一尺四寸の尋常一二年生用の出来上りです。	ドレスメーカー女 学院 杉野芳子	432-436 仕立方
	エプロン代りに着られる流行の男女児用上被の仕立方二種 (二)七、八歳女児用上被の仕立方「確かに洋服が二倍くらいは持ちこたえる体裁のよい上被の仕立方です」 (※口絵写真は4月号に掲載)	洋服の上からすっぽりと着て、とても身軽に運動のできる、女児用の新型上被の仕立方を、御紹介いたします。布地は、薄鼠色地に赤の水玉模様ボブリンで、出来上りの寸法は、七八歳用ですが、鯨尺で、身丈を一尺六寸五分に、裾は一尺三分に、下の洋服がすっきり隠れてしまふやうに、たっぷり仕立てました。	日本橋角 西川商 店 豊生才治郎	439-442 仕立方
	流行の子供帽子と上被 (4)十一二歳女児用上被、(5)七八歳女児用上被、(6)十歳前後の女児用上被	重ぐるしい冬のお帽子と、オーヴァーを脱ぎ捨てて、軽快なお帽子と、オーヴァーや、エプロンの代りに着られる、流行の上被に取り替へませう。上被は、お馴染の小幡、岩本両先生が御考案くださったもので、布地はプリント(模様物)や、無地物のトブラルコ、ギンガムなどを上手に用いた可愛い新型です。このほかにも男女児用上被の仕立方を、本文で御紹介いたしました。	(4)小幡繁子 (5,6)岩本錦子	48 口絵写真
昭和8年1月号 (17巻1号) 付録の別冊 「和洋裁縫新案物の仕立方百種」	(便利な新案物の写真画報) 四、五歳男女用の室内オーヴァー (※仕立方の記事タイトルでは上被)	写真の有り合わせのネルを利用した、室内用のオーヴァーです。ヨークがついて、身幅がたっぷり、袖も太目にして、袖先をゴムテープでしばってありますから、とても温かいです。形は洋服式ですが、有合せの和服物の布地を用いて、綿を入れてもよろしいでせう。もし和服上に召すのでしたら袖をずっと太くしておきます。	さかゑ商店 岩本錦子	9 口絵写真
	(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (十三)四、五歳向女児用新型上被「口絵色刷写真九頁のヨーク付変り衿の上被です」 (※口絵写真のタイトルでは 室内オーヴァー)	外出用のオーヴァーにでもしたいやうな、口絵色刷九頁の、新型の上被の仕立方をご紹介します。布地は、写真のやうな奇麗な格子柄の本ネルで、冬向ですから、衿を少々複雑に、思ひ切ったデザインをして、新味を見せ両前身頃につけた、大きな変り型のポケットには、ハンカチーフも入れられます。材料：有合せのものでよいですが、冬向ですから、防寒にもなるやうに、毛織物がよいでせう。そして、柄も上被だからとて、あまり映えないもので仕立てて着せると嫌ひますから、赤などの入った美しい柄を選んで		151-156 仕立方

<p>(便利な新案物の写真画報) 七、八歳向の男子用上被</p>	<p>写真は通学用にお奨めしたい、温かい上被です。よごれを防ぐためばかりではなく、洗濯のきくネルなどで仕立てますと、防寒用にもなりません。これは格子柄の本ネルで仕立てましたから、よごれにくくて温かで、洗濯にも耐へます。冬物でなければギンガムなどが最もよろしいでせう。</p>	<p>ドレスメーカー女 学院 杉野芳子</p>	<p>18 口絵写真</p>
<p>(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (十五) 着工合のよい七、八歳向の新型 男児上被</p>	<p>鈕やスナップを、一つもつけずに、袖口をゴムテープで絞るだけで、ただお頭からすっぽり被って着るのですから、至って造作ない型ですが、ヨーク下でギャダを寄せましたのが、如何にも気がきいてをります。材料：用布は、セル、ネル、メリンスなどの毛織物なら、汚れにくくてお温かで、一番よろしいのですが、お手近の布地を適当に選んでお用ひなさいませ。新しい布地に限らず、お父様の洋服の古いのや、お母様のセルの古着などを利用してよろしいのです。古いものを利用するときは、型紙を先に裁って、解いた布地の上へ型紙をのせて裁ち合わせます。</p>		<p>162-167 仕立方</p>
<p>(便利な新案物の写真画報) 六、七歳向の女児用上被</p>	<p>幼稚園のおいたざかり 砂遊や粘土いちりで、上被でも着せなければ毎日着物の洗濯が大変でせう。写真はネルの格子縞を用ひて仕立てましたが、英ネルでも、安価で丈夫なことこの上な事です。仕立方は極く簡単ですから、是非お仕立てくださいませ。ここでは、洋服上に着てをりますが、袖をこれよりも太く、身丈を長目にして、和服の上にも召される新型。</p>	<p>文化裁縫女学校 二宮信子</p>	<p>19 口絵写真</p>
<p>(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (十九) 六、七歳用女児上被の仕立方 「口絵色刷写真十九頁を御参照ください」</p>	<p>ギンガム、ネルなど、いづれでも結構ですから、好みの柄を用意して、遊び盛りのお子様方に便利な洋服向上被の簡単な仕立方をご紹介いたします。縫方：尚ほ丈を三四寸長くして袖を一寸五分くらい広くして仕立てますと、和服用にも着られます。</p>		<p>180-183 仕立方</p>
<p>(便利な新案物の写真画報) 六、七歳向の女児用上被</p>	<p>幼稚園のおいたざかり 砂遊や粘土いちりで、上被でも着せなければ毎日着物の洗濯が大変でせう。写真はネルの格子縞を用ひて仕立てましたが、英ネルでも、安価で丈夫なことこの上な事です。仕立方は極く簡単ですから、是非お仕立てくださいませ。ここでは、洋服上に着てをりますが、袖をこれよりも太く、身丈を長目にして、和服の上にも召される新型。</p>	<p>溝部洋裁女塾 溝部百合子</p>	<p>2 口絵写真</p>
<p>(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (十四) 六、七歳向女児用支那式上被 「口絵色刷写真二〇頁を御覧の支那式上被です」</p>	<p>きりりと掛け合せた詰衿に、左横で深く打合せたい広い前身頃を、左右から軽くりボンで結び合せた、支那服独特のあけなさに、運動に自由なラグラン袖を応用して、色刷写真で御覧のやうな、新型の上被を作ってみました。材料：布地は何でもよいのですが、新しくお求めになるのでしたら、支那型に因んで、口絵で御覧のやうな、支那式の柄合ひのものを選び</p>		<p>157-161 仕立方</p>
<p>(便利な新案物の写真画報) 八、九歳の女児通学用上被</p>	<p>これは通学用の上被です。女児用ですから、写真のやうに美しい色合の格子縞ネルで仕立てましたが、もし男児用でしたら鼠、茶などの無地ギンガムで、前の打合せをこれと反対にして、あとはこのままお仕立になればよろしいのです。手工などするにしても、これを召していましたなら、どんなにやりよいかわかりません。どうぞお召しくださいませ。</p>	<p>文化裁縫女学校 中村里海</p>	<p>21 口絵写真</p>
<p>(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (十八) 八、九歳女児通学用上被の仕立方 「口絵色刷写真二十一頁を御参照ください」</p>	<p>お子様方の通学用に便利な上被として、女児用に色合のよい格子縞ネルで洋服向に、極く簡単に仕立てたものですが、ギンガムなどの布地で、前打合せを反対に仕立てますと、男児用にも重宝に着られます。</p>		<p>176-179 仕立方</p>
<p>(便利な新案物の写真画報) 十歳前後の男女用上被</p>	<p>写真はお父さんの夏服の古くなったもので仕立てた、男児用にも、女児用にも向く上被ですが、毛織物ですから、薄手ながらも温かで、通学用には最も都合のよい、室内オーヴァー兼用になります。普通のオーヴァーでしたら、お教室では着てはをれませんが、こうした型でしたら、さしつかへないわけです。運動ざかりのお子さん方には、ぜひお着せしたいのですから、何か有り合わせの適当の布地を見つけてお仕立てください。ぜひとも洋服地を選ぶ必要はありません。</p>	<p>溝部洋裁女塾 溝部百合子</p>	<p>22 口絵写真</p>
<p>(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (十六) 十歳前後の男女児用上被「口絵色刷二十二頁の新型上被の仕立方です」</p>	<p>お父様のお古になった洋服やオーヴァーなら、坊っちゃん向に、お母様やお姉様方のセルの着物や洋服のお古なら、嬢ちゃん向に、次のやうな上被を作ってお着せくださいませ。一枚の上被のお陰で、お洋服が汚れなくてどんなに助かるか知れませぬ。新しい布地なら、ホームスパンでもネルでもメリンスでもよいのです。</p>		<p>167-172 仕立方</p>

昭和初期における子供用上被：村田

	(便利な新案物の写真画報) 六、七歳女兒用の可愛い上被	おいたざかりのお子さん方に写真のやうな上被を、ぜひお着せしたひとと思ひます。これを召していましたら、召物のよごれる心配などなしに、思ふ存分遊べませう。布地は洗濯第一のギンガムですが、柄合は御覧のやうに、可愛いスタイルとしつくりした格子縞です。二枚もそなへてありましたら、いつも清潔が保てませう。	日本橋三越赤ちゃん用品部 積木民蔵	40 口絵写真
	(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (十七) 七、八歳女兒用上被の仕立方 「口絵色刷写真四十頁を御参照ください」	和服にも洋服にも向き、男女児両用になる、恰好のよい新案の上被の仕立方をご紹介します。		173-176 仕立方
	(便利な新案物の写真画報) 五、六歳女兒用の新型上被	これも御覧のやうに、前頁と同じくおいたざかりのお子さん方に、ぜひ召して頂きたい上被です。布地は、やはりギンガムの弁慶縞で、仕立方は極く簡単ですから、前頁の記事によってお仕立てくださいませ、お子さんの多いお宅などには、こうした贈物もよろこばれませう。	日本橋三越赤ちゃん用品部 積木民蔵	41 口絵写真
	(新案の便利な子供物二十二種の仕立方) (二十) 五、六歳用女兒上被の仕立方 「口絵色刷写真四十一頁を御参照ください」	口絵写真で御覧のやうに、五、六歳女兒用の可愛い上被の仕立方を御紹介いたしませう。材料：口絵を参照してお好みの用布を選び 尚ほこの可愛い新型は、和服用としてゆったり着られるやうに、身幅も袖付お衿割も大きくしてありますから、布地によってお嬢さん方と限らずに、坊ちゃん向にも御用意ください。		183-186 仕立方
昭和18年4月号 (17巻4号) 本誌	新考案の通学用上被 (1)十歳前後の男女児用、(2)七、八歳女兒用、(3)六、七歳男女児用、(4)七、八歳女兒洋服用、(5)七、八歳男女児用、(6)七、八歳女兒和服用	(1)十歳前後の男女児用 (文化裁縫女学校考案)、(2)七八歳女兒用 (澤田洋装店考案)、(3)六七歳男女児用 (大森洋裁学院考案)、(4)七八歳女兒洋服用 (大森洋裁学院考案)、(5)七八歳男女児用 (澤田洋装店考案)、(6)七八歳女兒和服用 (文化裁縫女学校考案)	(1,6)文化裁縫女学校 (2,5)澤田洋装店 (3,4)大森洋裁学院	458 写真
	新考案の女兒用上被の仕立方 (一) 七、八歳女兒用の和服用上被の仕立方 「新考案の通学用上被各種のうち(6)の仕立方」	(6)の仕立方：上被は洗濯のはげしいものですから、なるべく丈夫な布地を選んで作ります。これは写真でお目にかきましたやうに、玉虫色ギンガムに白のテープを飾縁につけた、極く簡単な和服用の上被ですが、丈を短くして袖を細くしますと、洋服にも着られます。寸法は和服用ですから、丈も長目に、鯨尺で身丈一尺九寸(72センチ) 桁一尺三寸(49センチ半)の出来上りで、7、8歳向です。	文化裁縫女学校 二宮信子	458-463 仕立方
	新考案の女兒用上被の仕立方 (二) 通学用の新型女兒洋服用上被の仕立方 「新考案の通学用上被各種のうち(4)の仕立方」	(4)の仕立方：写真で御覧のやうに、白と緑の格子ギンガムで、型は、ヨークとポケットを斜布につかひ、腰廻りにギャグをとって、胸に飾釦をつけ、左の前脇に手拭かけをつけた便利な上被です。寸法は鯨尺で身丈一尺三寸(49センチ半) 桁一尺四寸(53センチ)の出来上がりで、幅は型紙を御覧ください。	大森洋裁学院 大森繁子	465-468 仕立方
昭和18年12月号 (17巻12号) 付録の別冊 「冬の流行婦人子供洋服の作方」	(冬物の新型婦人子供洋服大画報) (五十二) 八、九歳男女児用上被	通学用におすすめしたい、男女児用の上被です。布地は洗濯のきくギンガムの鼠地にエンジの細かい格子縞で、ヨークつきの襲とりですから、極く着よいと思ひます。	さかゑ商店 岩本錦子	29 口絵写真
	(冬向の新型婦人子供服の仕立方) (八) 八、九歳用の男女児上被 (口絵二十九頁五十二)	通学用にも家庭着にもふさはしい、男女児用の上被です。薄鼠に赤の細い格子縞ギンガムで、ヨークは格子を斜に使ったもの。裏なしですから、縫方も至って簡単です。布地は、この他に、セルやサージなどでもよろしいでせう。形が可愛く防寒と下の汚れを防ぐのとを兼ねるため、お子様にはぜひ欲しいものです。出来上り寸法は、口絵を、細かい寸法は[一図]の出来上り寸法の型紙を、御覧くださいませ。		88-90 仕立方
	(冬物の新型婦人子供洋服大画報) (五十八) 五、六歳女兒用上被	実用本位の上被ながら、ちょっと流行にひき入れられて、御覧のやうなお袖にしてみました。もし坊ちゃん用でしたら、袖附につけてある余分なふくらみの布をつけないでそして前の打合せを反対にいたします。布地はお洗濯本位のギンガム	さかゑ商店 上田きよ子	32 口絵写真
	(冬向の新型婦人子供服の仕立方) (四) 五、六歳女兒用の上被 (口絵三十二頁五十八)	写真のやうな、女兒用の新型上被の仕立方を御紹介いたしませう。袖に、いま全盛の流行をとり入れて、飾布をつけた可愛い型ですが、もし男児用をお仕立てになるのであれば、飾布をつけないで、そして前の打合せを反対にすれば、他はこれと全く同じです。		76-78 仕立方

大阪大谷大学歴史文化研究第15号 2015

<p>昭和9年3月号 (18巻3号) 本誌</p>	<p>(1)一二年生男女児用上被</p>	<p>小学生の服装が和服から洋服へと変るにつれて、純和服式の前掛が和洋折衷のエプロンに変わり、それも今では上被へと進出して、時代はだんだん変わってまいりました。これなら寒さの調節もでき、御家庭や教室でも、このまま着て、お洋服を汚さずにすみます。布地は、黒に黄色の水玉模様の細字ポプリンに、黄の斜布で縁をとった新型です。前の打合せを反対にして頂きますと、他はこのままで女児用にもなります。この上被を男児用と女児用に仕立てて主婦之友社代理部でお取扱いいたします。詳細は本文仕立方記事の終りを参照くださいませ。</p>	<p>渡邊洋裁女学院 渡邊花子</p> <p>14 口絵写真</p>
	<p>新型の男女児用上被の仕立方二種 (二) 八、九歳男児用上被の仕立方「口絵十四頁写真の新型上被を御参照ください」</p>	<p>通学用として召されるやう、ポケットや衿に簡単な縁取りをしてみましたら、上被とは思はれぬやうな、すっきりしたものが出来ましたので、御紹介することにしました。記事は細地ポプリンを用ひましたが、何でも洗濯のきくものを選ぶことが大切です。もし女児用に仕立てる場合は、柄と前打合せさえ替へれば、他はこのままでよいのです。</p>	<p>441-445 仕立方</p>
	<p>(2)幼稚園生用上被</p>	<p>玉虫色のギンガムで、後前ともにギャタをとった、運動に便利な上被です。前の打合せを反対にして、坊ちゃんにも着せてくださいませ。とても可愛いではありませんか。写真と同じ上被を男児用と女児用に仕立てて、主婦之友社代理部でお取扱いいたします。詳細は本文仕立方記事の終りを御参照くださいませ。</p>	<p>文化裁縫女学校 中村里海</p> <p>16 口絵写真</p>
	<p>新型の男女児用上被の仕立方二種 (一) 幼稚園生向の可愛い上被の仕立方 「口絵十六頁の可愛い写真を御参照くださいませ」</p>	<p>五六歳くらいの、おいた盛りの坊ちゃんや嬢ちゃん方に、別頁の口絵と(一図)とでお目にかけました可愛い上被を作って、お着せくださいませ。写真のは前の打合せを女児向きに合せましたが、男児用なら左を上に乗せます。材料一揃：上被はエプロンと同様に、殆ど毎日洗濯をしますから、丈夫で色の褪せないギンガムが一番よろしいでせう。</p>	<p>436-440 仕立方</p>
	<p>(3)(4)小学生用上被</p>	<p>右はラグラン型の袖付に、後前ともギャタをとり、木綿の模様変り織で仕立てた、新型の上被です。左は、上被は洗濯が第一で、洗濯に付物はアイロンがけといふ、これを標語(モットー)にして作ったもので、布地はカーテンにする更紗模様のクリトンです。袖口を絞ったテープと、前打合せのテープは、お洗濯のときに取り外しますから、一番通しよい靴紐を利用しました。</p>	<p>(3)小幡繁子 (4)ハリス・ヨシノ夫人</p> <p>18 口絵写真</p>
<p>昭和9年11月号 (18巻年11号) 付録の別冊 「編物と裁縫の 防寒物百種の作 方」</p>	<p>(編物と裁縫の防寒物百種の写真画報) (2)五、六歳男女両用の防寒上被</p>	<p>幼稚園ゆきのお子様方に、ぜひ召して頂きたい、防寒用上被です。布地はエンジと鼠の、一分角の弁慶綿英ネルですから、温かでお洗濯がきき、しかも手に入り易く、お値段なども極くお安いですから、おいたざかりのお子様方には理想的のもの。</p>	<p>渡邊洋裁女学院 渡邊花子</p> <p>4 口絵写真</p>
	<p>(子供さん方の防寒着の作り方) (23)四、五歳女児用の防寒上被(スマツク)(口絵四頁(2)の恰好のよい上被(スマツク)を参照)</p>	<p>小学生の、一二年生ぐらいのお子様方にお奨めしたい、男女児両用向の防寒上被です。温かでお洗濯のきく、そして安価に求められる、英ネルの大格子綿を用ひましたが、男児用でしたら、鼠の霜降りなどがよろしいと思ひます。</p>	<p>105-107 仕立方</p>
	<p>(編物と裁縫の防寒物百種の写真画報) (3)七、八歳男女両用の防寒上被</p>	<p>おいた盛りのお子様方には、殆ど年中必要ですが、殊にお寒い折は、幼稚園通ひにも、またお家のなかでも、お洋服の上からお着せになって、温か、着物のよごれを防ぐこと、この上なしの、簡単な上被の仕立方を御紹介いたします。</p>	<p>小幡洋裁裁縫女学校 小幡繁子</p> <p>4 口絵写真</p>
	<p>(子供さん方の防寒着の作り方) (24)防寒用の七、八歳女児の上被(スマツク)(口絵四頁写真(3)の上被(スマツク)を参照)</p>	<p>冬はお洋服の洗濯が、夏ほど容易にできませんから、ぜひ口絵写真のやうな上被を作って、坊ちゃん嬢ちゃんにお着せくださいませ。和服用には、袖附をもう少し大きくし、衿附も少し大きく切るとよろしいです。大体の仕立上り寸法は、[一図]と[三図]を御参照くださいませ。材料：お洗濯の容易な点から申せば、セルカギンガムなどがよいのですが、防寒を兼ねますから、ネルや、そのほかの地厚物を、色もあまり淡物でなく、濃い色の織物か色無地を選びませう。</p>	<p>108 仕立方</p>